

灰色の街に生きて 出会いを求める人たち

①

「死にたい」「生きたい」

一歩間違えば、座間事件の被害者のようになるかもしれない。でも、怖くなかった。どうせ死ぬから。

福岡市のイズミさん(21)は、自殺サイト(21)に「(自分を)殺りたい」と書き込んだ。発達障害の影響もあって就職先が決まらず、自暴自棄になっていたところだった。

昨年10月、神奈川県座間市で9人の遺体が見つかった。殺害された被害者の多

くに自殺願望があり「一緒に死のう」と誘い出されたとされる。自分にも「手助けします」と書き込みがあった。会いには行かなかった。東京の人だったから。近ければ行っていた。

今もアルバイト先の同僚とうまくいかないときなどは、自殺サイトのほか、会員制交流サイト(SNS)で見知らぬ人に寂しさを漏らす。慰めてくれるのは最初だけで、たいてい「二言目には「エッチさせて」と心の隙を突いてくる。

味方はどこにもいないのか。これまで3度、自殺を図った。腕には傷が残る。



過去に3度、自殺を図った女性。左腕には自傷の痕が残る

正直、最初はエッチ目的だった。福岡県のヒロさん(25)はSNSで知り合った「死にたい」という女性たちと接するうちに自分に変化を感じた。

昨年、宮崎県から家出してきた高校生を自宅に泊めた。学校や家庭の悩みを聞いてみると突然、6階から飛び降りようとした。必死にすがりついて止めた。20代女性は介護の仕事で失敗し、施設を辞めた。遠距離なので電話しかない。介護だけが仕事じゃない、ゆっくり考えて。そんな会話を1カ月、交わした。携帯電話代は40万円かかったが、持ち直してくれた。

理解してほしい、必要と

されたい…。彼女たちの心の奥底にある思いが分かる窓口が表示される。味方はいるよ。そう呼び掛けるような自殺予防の試みが、座間事件を前後してネット上に広がっている。

福岡に流れ着き、気晴らしにSNSで「死にたい」の言葉を検索した。会っているうちに、心が満たされていくのに気付いた。「必要とされたことがなかったから」。今、彼女がいる。その人の味方でいたい。

イズミさんも最近、味方を見つけた。フェイスブックで生母を探し当て、18年ぶりに再会した。3歳で別れて覚えていないはずなのに、なぜか懐かしかった。「会えて良かったな」。生

きたいと思えてきた。